

大和郡山 防災ニュース 2. 10月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

防災における自治会の役割 地域みんなで避難計画をつくろう！

地域防災の「『いろは』の『い』」は、みんなで安全に避難ができることです。私共は自治会(自主防災組織)のみなさんから、まず、何から始めたらよいか？と訪ねられたとき、地域での避難について決めてください、とお願いしています。



市では、平成29年11月に逃げることに特化した『全市避難訓練』を実施しましたが、個々の避難や防災についての知識、地域における避難体制づくり、私共市防災部局の認識が伴わず、もの足りなさが残る訓練となってしまいました。

この反省から、翌年度から筒井地区、治道地区で地区訓練を行い、次回は昭和地区での訓練を予定しています。地区ごとの訓練は自治会毎の避難や地域が役割を分担して避難所運営を行う有意義なものとなっていますが、準備に時間がかかるため、市内全域に行き渡るまでに相当時間がかかります。

そこで市では、自治会(自主防災組織)において、まず、避難について考えていただくことから始めていただきたい、という主旨から、「防災における自治会の役割『避難計画をつくろう！』」を発刊いたしました。

この冊子は、地域で避難計画をつくる時、どのようなことを心がけたら良いのか？を説明しています。特に大事なものは、計画づくりには、こどもさんなども含めて、できるだけ多くの住民が参加してもらうことです。災害時の避難は自治会長や役員さんだけで考えるものではないことは、先月の防災ニュースにも掲載したとおりです。

避難計画には、地震などの大規模災害に際して、班毎の集合場所(一次避難場所)はどこにするか？自治会全体の集合場所(二次避難場所)は？また最終、どこの市指定避難所に避難するか、さらに、みんなで一緒に避難できる比較的安全な経路を検討して、町内の地図に落とししていくことから始めていけば良いでしょう。また、最初の集合場所での安否確認と、それぞれの住民が避難所に行くのか？自宅に留まるの

防災における自治会の役割

避難計画をつくろう！



令和2年10月発行
大和郡山市

か？の意思確認を行い、市指定避難所への避難希望者や援助物資を必要とする避難所外避難者を分けて把握しておけば、自治会を通じてスムーズに食料などが行き渡りやすくなります。

～全体の避難計画策定の中で要支援者対策も考えよう！

計画をつくっていく中で、ご近所の高齢者で歩行困難な方などは、どうやって避難してもらったらいいのか？というような課題も見えてまいります。市は「災害時避難行動要支援者名簿活用の手引」で、地域のみなさんに名簿を活用した要支援者対策をお願いしてまいりましたが、地域全体の基本的な避難の手順を決めていく中で、一人一人の要支援者が、他の住民と一緒に避難できる方なのか？、それとも支援者を決めておくなど特別な対応が必要なのか、ご検討いただけたらと思います。まずは、要支援者と支援者がお互い話ができる関係づくりから始めていただけたらと存じます。



令和2年度限り自主防災組織活動事業費補助金について 多くのお問い合わせをいただいています。

8月から受付を開始した、新型コロナウイルス感染予防対策の今年度限りの補助金制度については、補助率は基本100%で、自治会の規模に応じて、補助限度額も、99世帯までの自治会で、100,000円、100～299世帯 200,000円、300世帯以上 300,000円と、例年より高く設定しています。



自主防災組織からの申請件数は、現在40を超えて、総額500万円以上の補助申請をいただきました。主には、防災倉庫、発電機、充電器などの防災資機材、備蓄食料のほか、コロナ対策の消毒薬なども購入されています。今回の制度は、令和2年度限りとなっていますので、この機会に、地域の防災体制づくりに活用していただきますようご検討をお願いします。

自治会などの防災出前講座依頼も受付中！ 少人数でも訪問します。市民安全課までご相談ください

このニュースは、市民安全課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館で配布しています。また、市のHPでもご覧になれます

[大和郡山防災ニュース](#) 🔍 検索

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください

[大和郡山市消防団へようこそ](#) 🔍 検索

発行人 市役所市民安全課